

手

清水エミ子

ひろしくん おはなしするとき みてたら

ずぼんのところで てのゆびがひとり

ピクンと うごいてたんだよ

そしたら こえがでて おはなしがはじまったんだよ

てのゆびが おはなしの スイッチみたい

だってひろしくん かおがあかくなったもの

(けいこ 六歳)

てって どうして ゆびがあるの

ゆびは みんなせいがちがうんだね

ちっとずつちがって ほねでまがって

そうか なんかもつからだね

でもどうして おんなじせいじゃないの

そうか わかった はたらきかたが みんなちがうから

おんなじせいに しておけないんだね

おんなじにしておくよ けんかするから

(けんじ 五歳)

こうやって、子どものことはをきかえしながら、筆をはしらせていると、手の指のはたらきの違いが、はっきりわかります。

からだのなかで てがいちばんくたびれる

そのつぎ あしたね

ちがうかな あしがいちばんで

そのつぎが てかもしれない

ちがうな ては あるかなくても

なにかしている はたらいている

だからやっばり てがくたびれているんだ

(だいすけ 五歳)

こんな、ことがきこえてきます、すると手をしみじみと見つめてみるのです。ほんとうに、ごころうさまと、あいさつしたくなるのです。またまた、子どものことばが、きこえてきます。

おやゆびは いつでもいつでもはたらいて

ちからをいれて くだびれるから

おおきくならないんだね でぶでちびだ

おやゆび はなしてもつの とつても もちにくいよ

それに あかちゃんのと き なめたから

くすぐったくって わらってたから

せがのびなくなったのかもしれないよ

(ゆみ 六歳)

あかちゃんの、ゆびしゃぶりの、ともだちから、大人の仕事の
あいてをしている手を、いまさらのように見つめてしまいます。

子どもたちが、人生をかくとくしていくのも、この手をかり
て、いろいろのものに出会うからではないでしょうか。

いじくり、たしかめながら、そのころよさ、しっぱいのくや
しさを、心につたえていってくれるのが手です。指です。指の先
です。指先のごきが、子どもたちの、いいえ、人間の心を表わ
しているのではないのでしょうか、心は顔の表情だけに出るのでは
ないと思うのです。指先にこそ、心のすなおなさけびが表われて
いるのです。

赤ちゃんの指をみてください、こわい、うれしい、たのしいこ
とが、手の指先の動きに表われているのです。

幼児が、鉄ほうをにぎり、クレヨンをにぎり活動にちょうせん
するときの意欲は指先に力がいり、きんちょうしています。

はさみをもって、きれいなとき、クレヨンをもって、かきたく
ないとき、指先はほんやり、ぐんにやり、力が入っていないので
す。指先は降参して、弱々しい表情になっているのです。

指が生き生き、赤みをもっている子どもは、幸せなのではない
でしょうか、喜びがあふれます。

手は生産のためにあるものです。物を生産するだけでなく、人
生全体を生産するのです。

手を生産的につかえる喜びを、子どもたちに知らせることが大
人の役割でしょう。喜びのために手を動かす心地よさを、ひとつ
でも多く味わわせることです。

ボールをはじめつかんだ子どもの、笑顔と、なかなか、はな
しながらない指と手をみのがしてはならないのです。

いっしょうけんめいかいてたら、

くれよんと てが なかよくしすぎて

あせかいちゃったよ ほらね みてごらん

(みよこ 五歳)

(大田区立蒲田幼稚園)